

言語接触による文法変容と文法模造の研究 : 中古日本語に与えた仏典訓読の影響を中心に

劉, 洪岩

<https://doi.org/10.15017/1500738>

出版情報 : Kyushu University, 2014, 博士 (芸術工学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	劉 洪岩		
論文名	言語接触による文法変容と文法模造の研究 - 中古日本語に与えた仏典訓読の影響を中心に - An Empirical Study of Contact-induced Grammatical Changes and Grammatical Replications: Focusing on the Effects of the <i>Buddhist Scriptures Kundoku</i> on Early Middle Japanese		
論文調査委員	主査	九州大学	教授 板橋 義三
	副査	九州大学	教授 矢向 正人
	副査	九州大学大学院人文科学研究院	教授 高山 倫明

論文審査の結果の要旨

本研究は、従来の国語学の実証主義を乗り越え、その実証性を個々の用例で裏付けるとともに、その裏付けを歴史言語学、接触言語学、言語類型論という観点から見直した、斬新な論考である。中国語からの漢籍との比較を念頭に置き、中古日本語の仏典訓読の言語接触学的特徴を中国語の要素と詳細に比較対照し、その相違を明確にすることで、日本語の仏典訓読の言語接触学的、類型論的変容の特異性を明らかにした、非常に意欲的な博士論文である。本論文は序章に引き続き、6章からなる。第1章で言語接触における漢文の仏典訓読の位置づけについて説明した。第2章では考察資料としての仏典訓読資料の文法的性格を詳説した。その背景を基盤とした上で、第3章で仏典訓読による文法変容の可能な類型を提示した。第4章から第6章にかけては、仏典訓読による中古日本語文法の変容に対して具体的に調査した用例を提示して、言語接触による文法変容の動機付けとそのメカニズムを詳しく述べた。より具体的には、第4章では主に語構成の変容の考察を行い、仏典訓読による文法の翻訳模造の特徴を明らかにした。第5章では主として文法標識の変容を考察し、仏典訓読のような文法の接触による文法化の特徴を明らかにした。第6章では構文の変容を考察し、仏典訓読による統語構造の模造の特徴を明らかにした。終章の結論では言語接触による文法変容の原理と体系について整理し、体系化したものを提案した。最後に今後の課題を述べた。

本論文では仏典訓読による日本語の特異な変容メカニズムを解明し、言語接触理論をより確実なものへと導き、実証的な論拠を示しつつ、日本語一般の変容の体系性にも敷衍した。さらに従来の口語という言語の枠組みに異議を唱え、文語という言語にも同様に言語接触の偏在性を見出し、その草分け的方法論を示したことも学術的に評価の非常に高い点である。よって、本論文は博士(芸術工学(甲))の学位論文に値すると論文調査員全員が判断した。